

宇美町総合計画まちづくり座談会
(関係団体)報告書(要旨)

平成 25 年 12 月 18 日午後 7 時半開催

1 参加団体等の自己紹介及び現状と課題について

- ・ 町内には 49 の行政区があるが、人口規模の大小があり（最少の区は 6 軒）、スポーツの交流で人数がそろわなかったりするため、区の合併の話もある。
原田校区が口火を切る模様。（コミュニティ）
- ・ 15 年ほど前にサークルを立ち上げ、講演会、学習会、「町長と語ろう会」等をやっている。行政が後援している場合は良いが、通常は 1 か月前からしか施設を借りることができないのが不便である。
- ・ 荒れた町有地を利用して、サツマイモを 1 トン半、玉ネギを 1.2 トン作っている。
特産品づくりに取り組み、焼酎「宇美燦々」を 1,600 本作り、町内の酒屋で販売、玉ねぎは学校給食に食材として提供している。
町のイベントにおいて焼きイモ、焼きそば等の提供も行っている。
ボランティアが基本であり、町から少し援助がある。
会員は退職者が中心で平均 71 才位。会員数は 31 名から今年 27 名に減、活動を続けるには少なくともあと 4、5 名欲しい。もっと増やしていきたい。
- ・ 会員の学習会、講演会、実践活動（郷土料理教室等）、町の事業協力（子どもチャレンジクッキング等）の活動をしている。
会員は以前 60 名くらいだったが現在 28 名。
新会員の入会が少ないし、会員の高齢化で負担が大きい、町が自分たちに何を期待しているのかが分からない。町にもっと指導してほしい。
- ・ 「地域に健康づくり 介護予防の輪を広めよう」のスローガンのもと、閉じこもり、孤立を防ぐため地域で活躍できるような活動を行っている。
生活保護、老人医療がワーストになってきていることから、今後この活動に力を入れていきたいが、財政的な支援が必要である。
- ・ 子育てサークル・グループ・個人会員 30 名位で構成。
体を使って活動できる小中学生の居場所や、公園でのびのびと遊べる場所がない。
児童館等が少ないので大野城市のコミュニティセンター、志免町の施設を利用している人が多い。
中央公民館の定期利用について、利用の都度窓口に行くのが不便だ。
図書館、陸上競技場をはじめ、町の施設や公園は利用に際して規制が多い。（子どもたちに対して）町の施設の活用の仕方を示して欲しい。

- ・ 公民館は、芸術文化団体の連携、交流による町民の豊かな心、潤いある暮らしのために大事な施設

協会は、教養 3 団体、技術 6 団体、茶道 1 団体、器楽 7 団体、声楽 9 団体で構成。現在会員数は 352 名。現象減少している。

町民文化のつどい、老人福祉センターふれあいまつり、宇美八幡宮放生会等で活動している。

中央公民館は、昭和 52 年建設の施設であり、老朽化が進んでいる。また、大ホールも 418 席程度では前述のイベントの観客が収まらない。
- ・ 創立 20 周年、27 団体（11 種目）、670 名、指導者 163 名（うち日本体育協会公認有資格者 91 名）、4 万以下の町では 1 番多い、教育・指導等の活動で一回も重大事故は発生していない。

施設の使用料は、町内外の選手が参加する交流大会は、町外料金をとられる。他の自治体は無料。子どもたちに対する配慮がほしい。

スポーツ少年団に未加盟の団体が 7 団体あり、これらの団体は無資格者が指導している。施設の利用に関してスポーツ少年団加盟団体と未加盟団体との差をつけてほしい。

少子化に伴い団員の減少、特に女子団員が少なくなっている。

トップアスリートを招くためには行政をはじめ、チャレンジスポーツクラブ、スポーツ少年との連携が必要。
- ・ 施設の利用頻度が高い部会は施設の使用料が年間 20～30 万円となる。

施設の利用時間は、準備時間も含まれているため、十分な活動ができない。

中学校の部活動については、指導者がいないなど質の面で問題がある。

近年、糟屋地区体育大会、県民体育大会に参加する選手が少ないため試合が成り立たない。
- ・ 青少年に関わる 28 団体で構成する。子どもフェスタを主催しているが、中央公民館の大ホールは座席数が少ない。また、フェスタは中央公民館からしーず・うみまで複数の施設を活用して実施しているが、移動の際の安全面（ガードレール・う回路等）に不安がある。
- ・ 子ども会の健全な発展のためイベントや他大会を企画して子ども会の活性化、ジュニアリーダー、シニアリーダーといった人材育成を図ることを目的に活動している。

35 年経つが、課題は活動の目的（役割）を役員が理解しておらず、毎年同じ事をくり返している。各区の役員選出においても、活動内容がわからない人を選出したり、会議に出てこない区があるなど温度差がある。

休会、退会する区がある。人数の少ない区もあるので区の合併を検討してはどうか。親の都合（地域活動に参加したくない。）で子どもが活動できない場合もある。

役員任期が2年では一貫性がなく、人材育成のネックとなっている、専門家に入ってもらいたい。

子ども会は中学生までが対象であるが、中学生加入の区は10%以下で、行政区が子どもの面倒をみきれていない。

カルタ大会は23の行政区しか参加していない（50%以下）。

- ・ 月2回の勉強会、小学校において昔あそびの指導、交通安全指導、刑務所バザー、廃油せっけん作り等に取り組んでいる。
会員が高齢化している（若い会員が入ってこない）。
- ・ 5つの小、3つの中学校のPTA役員と各学校の役員と情報等を交換しながら活動をしている、輪番制で行っている。
児童・生徒数が減少している学校があり、伴ってPTA活動にも影響。
あんしんメール（変質者情報）の配信数が多く、治安の面で不安を感じる。また、いじめ問題等の課題がある。
- ・ 赤ちゃんから就園前までの親子で「親子の楽しい仲間作り」と「家庭でできないことをしてみよう」をテーマにみんなで自主的に協力し合って、工作や小さなイベント、体操などの活動をしている。
- ・ 商工会員の脱退が進んでいる。理由は、高齢並びに後継者がいないための「廃業」が多い。今後、「創業支援」を促進するため関係機関なканずく金融機関との連携強化に重点を置き実施していくこととしている。
一方、小規模企業に対するキメ細かな政策が行われるよう「小規模企業基本法」の制定を国に要望している。

※団体から団体への「質問」

- ・ 町内料金と町外料金との違いについて（町外は町内の倍の料金を徴収される）。

2 今後のまちづくりへの提案

- ・ どの方向に向かっても道路の流れが詰まっている、広域的（他の市町村間）な連結が悪い。道路の整備が大切。
- ・ 子ども達への取り組みを積極的に進めるとともに、サークル・団体と連携をとりながらの活動を（大人も含めて）。図書館を核としたネットワークの構築を。
- ・ 耕作放棄地、害虫等の対策。
作業の効率化のため、未使用の機材（耕運機）等の提供がほしい。（農家とのつながりが少ないため）。
- ・ 推進会には栄養士がいない、健康課から活動に関する助言もないため、連携が図れない。
- ・ 少子高齢化対策として、安心して産んで育てられる環境づくりと、健康診断を受診する仕組みづくりを。
- ・ 公園に^{ひとけ}人気がなく、安心して遊ばせられない。また、できる遊びや対象年齢が分からない。これらの要素を表示した子育て・遊びのマップを作成してはどうか。
利用者のモラルも必要であるが、図書館をはじめ多くの施設も利用しやすく、親子にやさしく、「管理」じゃなく「活用しやすい」施設を目指してほしい。
人通りが多いところに子育て支援センターの看板（案内表示）がない。町民の認知度も低い。案内表示の設置をお願いしたい。
- ・ 中央公民館は、もっと多くの人員が入れる施設にして欲しい。使用料についても、以前は無料だったが、徴収されるようになり、文化協会に入るメリットがないという会員もある。使用料の徴収については問題として提起する。
- ・ スポーツ少年団と部活動との連携、小中一貫指導が課題である。柔道、剣道の部活動の生徒は全員スポーツ少年団加盟の団体で活動することでレベル向上に繋がっている。
部活動の指針は学校まかせで、部活動の指導を顧問に任せている点（日本体育協会公認資格者なし）が問題であり、外部指導者の派遣について検討する必要がある。
小学校低学年からスポーツに参加しやすい環境づくりが必要。
宇美町は武道が盛んであり、参加団体も多く活動が盛んである。宇美八幡宮奉納大

会を活用して、石巻市の武道フェスティバルなどを参考にもっと大規模に開催できないか。

高齢者の医療費の抑制のためにも、スポーツ人口を増やすことが大事。

- ・ 町全体で活動するのも大切だが、校区ごと（ブロック）での活動も考えるべき。
町を知る・町を愛する・町の自然を守る。
施設を新しく造るのが難しいのなら、近隣町村との共同利用できる仕組みづくりを進めるべき。
- ・ 建て替える機会があるならば、体育館の観覧席を広く（特に2段観覧席を設ける）通学合宿の実施のために、町内に宿泊できる研修施設があるといい。
校区ごとに子どもたちが自由に集える場所があれば良い。
- ・ 「遠くの親戚より近くの他人」という交流をめざした地域にしたい。
子ども会（参加のハードルが高いのでは）を通じて、子どもとお年寄りの関わりができる町（行政）のサポートが欲しい。
役場からは、関係する会議等に出席していない。
バレー等2、3か所に分散して開催している、大勢が一か所に集まれる施設が欲しい。人材育成は、子どもだけでなく大人たちもクラブ活動や講習会に積極的に参加することが重要。
町全体の視点から、行政区の合併を検討する必要がある。
- ・ 通学路の整備（スクールゾーン）。
子どもたちが手軽に利用できる施設（スポーツ・文化・体験等）がない。
図書館には自習するスペースがない。
各施設の集中化が必要。
- ・ 中央公民館の調理施設が古く、新しい南センターは狭い。
災害の際に炊き出しの対応ができない。
- ・ 部活動部員が少なくなっている（東中、南中）。校区割の見直しを。
PTAの町の補助費のさらなる支援をいただきたい、PTA役員はサラリーマンにとってはつらい面がある、役場職員にやって欲しい。
- ・ 小さい子どもを抱えているため会議の時間帯や託児などに配慮してもらいたい。

- 交通渋滞を解消するための道路（インフラ）整備
中心市街地の整備、特に商店街における「空き店舗対策」は喫緊の課題である。
「交流人口」は、「定住人口」の5倍の経済効果があるといわれている。このことを踏まえ、斬新な仕掛けによる交流人口の増加策を図ることが必要。例えば、休日に町駐車を解放していただき、ここで「軽トラック市」を開催すると、近郊市町から多くの来街者が見込める。（なお、各企画については、各団体等の「提案公募制」とする）
- コミュニティビジネスの促進
女性・シルバーなど地域住民が中心になり、地域に眠っている資源（労働力・原材料・技術力等）を活用して行う小規模ビジネスで、継続的に取り組むことによって新たな雇用を創出するなど地域の活性化に寄与するものと思料される。特に、シルバーの方は、仕事を通じて培ったノウハウや人脈を有しており、より多くの方がこれに参画すればシナジー効果が図られるものと思料される。

3 町全体に関すること

- 行政に子どもを大切にする気持が薄い、行政が団体や住民をリスペクトしていない。
- 大野城史跡は町の資産、大いにPRして世界遺産の指定を目指してはどうか。
- 男性も各団体の会員に入会して欲しい。
- 消防団、青年団は本日欠席だが、若い人達の意見を参考にして欲しい。
- 30～40代の方の考えや、子育てに対しての考えを取り入れて欲しい。